

ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

第110号 平成22年6月1日 発行

発行者 社会福祉法人 神戸婦人同情会 子供の家
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3
tel 06-6491-8953 fax 06-6498-3444
支援センター(tel, fax) 06-6491-1811
E-mail (子供の家) info@kodomonon-ie.org
(支援センター) candy@kodomonon-ie.org
URL http://www.kodomonon-ie.org



「子を思う気持ち」 ～親心、職員心、カラスごころ～

副主任児童指導員 松浦 武



今年の天候は寒暖の差が激しいのが特徴なようで、衣類の調整に苦慮したり、体調を崩す職員も多いようです。

さて天候のこととは直接関係のない話題ですが、先日子供の家の園庭で2匹のカラスのヒナを見つけました。どうやら巣から落ちたようなのですが、心配したカラスの親鳥が近くの電柱にとまり、カアカアと鳴き声を上げているのがとても印象的でした。

というのも最近、度々親の子どもへの情愛について考えさせられる機会が続いているからです。ひとつは先日「親の目、職員の間」という演題の所内研修を聴いたからです。講師は以前大阪の児童養護施設で働きながら結婚し、退職後に出産された方でした。この講演の中でわが子に対する愛おしさや深い愛情についてや、子どもを育てるといふ重い責任を親は背負うことについて語られていました。

また万葉集の山上憶良の一首「子等（ら）を思ふ歌」を目にすることがありました。

瓜食（は）めば 子等（ども）思ほゆ 栗食（は）めば 況（ま）して偲（しの）ばゆ
何処（いづく）より来たりしものぞ 眼交（まなかひ）にもとな懸（かか）りて 安眠（やす
い）し為（な）さぬ

「（旅先にて）瓜を食べれば子どものことが思われる。栗を食べばましてしのばれる。一体どこからきたものなのか。子どもの面影が目前にしきりにちらついて眠れない。」

反歌

銀（しろがね）も 金（くがね）も玉も 何せむに 勝（まさ）れる宝 子にしかめやも

「白銀も黄金も宝玉も、そんなものが何になろうか、子どもには及ぶべくもない。」

先人の子を思う率直な気持ちが表現された、何とも言えない深い歌であると思いませんか。施設職員として日々子どもを養育しているのですが、実際にわが子を育てていない私にとって「わが子を思う気持ち」が「何となく」分かってきたようなのですが、さらに理解しようとするのが、これからの施設での子どもの養育や親支援に役立つのではないかと考えています。



お花見



左の写真は尼崎にある公園です。小さな公園ですが、日中子どもとお買い物をした帰りに見つけた公園で桜がとってもきれいだっただけで思わず1枚撮ってしまいました。子供の家に咲く桜もとってもきれいだっただけで桜の木の下にテーブルと椅子を出して昼食を食べたり、おやつを食べたりと遠出をしなくても十分楽しめたお花見になったように思います。

ゴールデンウィーク

5月3日は子供の家毎年恒例のバーベキューを行いました。幼児はお部屋のホットプレートでしたのですが、それもまたゆっくりと食べる事が出来て良かったです。今年のGWは気温が高く、バーベキュー日和になりました。



レオクラブ



4月25日、大阪の長居公園と恐竜博物館へ連れて行っていただきました。大阪長居公園には植物がたくさんあり、お弁当も天気が良かったので外で食べる事が出来ました。恐竜博ではプラスチックの板に絵を描いてオーブントースターで焼くプラバンをさせていただき、嬉しそうに職員に見えてくれました。

5月30日は尼崎中央公民館でパンケーキ作りをさせていただきました。自分たちで一から作り、飾りつけに生クリームやチョコレート等々たくさんのお菓子を飾りつけたととても喜んでいました。たくさんのお菓子を飾りつけた子やミッキーの形に飾りつけた子、それぞれで楽しめたようです。本当にありがとうございました。



お知らせ

毎月発行させていただいておりました機関誌「ぽこあぽこ」ですが、22年度より2ヶ月に1回偶数月発行に変更させていただく事になりました。今後とも宜しくお願い致します。

寄付・寄贈者

- ・中村様
- ・永大興業株式会社立花ニューメトロ様
- ・ほりお眼科内科 堀尾俊治様
- ・カットサロン シノミヤ様
- ・岡野様
- ・南 比登志様
- ・福井 加奈子様
- ・川上 静子様
- ・西宮友の会様
- ・岸本様
- ・西澤 ひろみ様
- ・塚口住宅地婦人会様
- ・チュチュアンナ様
- ・津久井 進様
- ・久保 昌子様
- 田部 小枝子様

☆本当にありがとうございました☆

編集後記

新年度がスタートして、新しい制服に身を包み学校へ登校する子どもの姿・大きなランドセルを背負っている子どもの姿を見ていると笑ってしまいそうになっていましたが2ヶ月経つとそれらしくなるものですね。微笑ましい限りです。